COLUMN
コラム　萩原　智子



暑い夏がやってきました。皆さん、どうお過ごしでしょうか？ 熱中症には十分に気を付けて過ごしたいですね。

小学２年生の息子も長い夏休みに入って、毎日がてんやわんやです。1学期中にトマトの種を植え、観察記録を付けながら大事に育てていたトマトのプランターを夏休みに入るタイミングで、家庭に持ち帰りました。その後の観察記録を付けるのが、夏休みの宿題というわけです。

息子が意気揚々とドヤ顔で持ち帰ったプランターを見てみると、ワサワサ枝葉は伸びているものの、花の蕾すら見当たりません。こんなに大きくプランターいっぱいに育っているのに、花が咲いてなければ、蕾もない・・・なぜ？ よく見てみると、小さなプランターに苗が４本も押し合いへし合い生えていたのです。

以前、授業で農業博士が来校され、一緒に勉強をしたことがあったと思い出しました。４つ種を植え、芽が生えた段階で間引きをし、２本にすると良いと言っていたはず・・・あれ？４本もあるぞ（笑）早速、息子に聞いてみると、「せっかく頑張って生えてきた芽を取るのが嫌だったんだもん。可哀想じゃん。」との答え。それで間引きをしなかったそうです。その気持ちもわかる・・・でもきっと狭いプランターで育てられたトマトの苗は、栄養が足りなかったのか、根がうまく張らなかったのか、このままでは苗だけ大きくなって夏が終わってしまいます。

もう遅いのかもしれませんが、急いで息子と庭の花壇に植え替えました。結果はいかに。夏休みの観察記録、トマト収穫ゼロにならないことを祈ります（笑）

Profile
プロフィール

名　　前　萩原智子（はぎわら・ともこ）

生年月日　1980年4月13日

肩　　書　日本水泳連盟理事
日本マスターズ水泳協会理事
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員

出 身 地　山梨

出 身 校　山梨学院大学付属高等学校
山梨学院大学
山梨学院大学大学院

中学3年生時に、海外遠征カナダ選手権200m背泳ぎで、当時、日本歴代2位となる日本中学新記録樹立。
高校インターハイでは、200m背泳ぎで、3連覇達成。同年アジア競技大会では、個人、リレー種目で、3個の金メダルを獲得。
2000年シドニー五輪、200m背泳ぎ4位、200m個人メドレー8位入賞。2002年日本選手権では、100m、200m自由形、200m背泳ぎ、200m個人メドレーで史上初の4冠達成。「ハギトモ」の愛称で親しまれ、2004年現役引退。
5年の歳月を経て、2009年現役復帰宣言。復帰レースとなった新潟国民体育大会では大会新記録で優勝。
翌年2010年には、30歳にして日本代表に返り咲いた。同年、ワールドカップ東京大会で50m自由形、100m個人メドレーで、短水路日本新記録を樹立。
2012年2月のJAPAN OPENでは、50m自由形で短水路日本記録を樹立。
2013年6月、日本水泳連盟理事に就任。
2015年、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員に就任。
現在は、テレビ・ラジオ出演や水泳の解説のほか、自ら現場に行って取材を行い、ライターとしても活動の幅を広げている。
メディア出演のほかにも、これまでの人生経験をもとに講演活動を行うほか、改めて、自身を育ててくれた「水」に感謝し、水泳教室はもとより、「水の大切さ」や「水の教育」にも取り組む水でエデュケーション・コミュニケーションする「水ケーション」の活動にも注力している。また山梨県、福島県、愛知県で水泳大会「萩原智子杯」も開催している。

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】
①A5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】
○主催団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等をお教えください。

きれい甲斐

No.93 AUGUST 2022

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。
環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし
事務局●〒400-8501山梨県甲府市丸の内1丁目6-1山梨県自然共生推進課内
TEL.055-223-1634 FAX.055-223-1781 ✉shizen@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ パートナーシップやまなし 検索
発行責任者●企画委員長　志　村　宏　司

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています

令和4年度定期総会を開催

令和４年度定期総会は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、書面会議としました。

役員・企画委員

会長	坂本	政彦	（一社）山梨県トラック協会			
副会長	田辺	光正	山梨県ボランティア協会	野口	英一	（公財）富士山をきれいにする会
	勝村	和重	山梨梨県ＰＴＡ協議会	中澤	昭	山梨県農業協同組合中央会
	窪田	清	日本労働組合総連合会山梨県連合会	小林	明	山梨県商工会議所連合会
監事	浅野	正一	（一社）山梨県建設業協会	保坂	武	（一社）山梨県森林協会
企画委員長	志村	宏司	パルシステム山梨			
企画委員	齋藤	正信	山梨県商工会連合会	仲澤	早苗	山梨県消費生活研究会連絡協議会
	戸島	秀和	環境に関する企業連絡協議会	清水	澄男	（一社）山梨県労働者福祉協会
	伊藤	祐寛	山梨県専修学校各種学校協会	望月	立弥	山梨県自然保護教育振興会
	黒田	光秀	クロダ㈱	岡野	公俊	（一社）山梨県老人クラブ連合会
	齋藤	紳悟	（公社）山梨県私学教育振興会	本田	万壽男	（一社）山梨県消費者市民社会推進協議会
	野呂瀬	秀	山梨県青少年団体連絡協議会			

令和４年度事業計画

１．活動情報の交換及びネットワークづくりのための事業

（１）広報誌の発行
・会員向けの会報的なものとし、年４回の発行を基本とします。
・会員相互のパートナーシップを深めるため、本会の活動計画や活動報告を掲載します。
・会員紹介や会員の特徴のある活動をＰＲし、環境活動を広めていきます。

（２）会員の募集
・積極的な広報活動を行い、より一層の会員の拡大（募集）を図ります。

（３）ネットワークづくりのための検討
・会員のネットワーク化及び主体的な事業参画に向けての検討を行います。

２．３Ｒ・温暖化防止対策実践活動推進のための事業

・エコライフお絵かき・川柳コンテストの開催
省エネ、マイバッグ、マイはし、３Ｒなどの「エコライフ」を題材として、県内の幼稚園児や保育園児、小学生、中学生を対象とした「お絵かきコンテスト」を、全年齢層を対象とした「川柳コンテスト」を開催することにより、大人だけでなく子どもたちを巻き込んだ普及啓発活動を展開し、３Ｒ及び温暖化対策実践活動の推進を図ります。
・３Ｒ推進、地球温暖化防止に関するネットワークフォーラムの開催
県民への意識の定着化を進めるため、関係団体に働きかけ、エコライフの普及や地球温暖化防止に関するネットワークフォーラムを開催します。

３．その他

・行政課題解決のための協働事業
・県事業との協働及び民間活動団体に対する後援等によるネットワークの拡充
「“人と環境にやさしい交通”県民運動」、「ボランティア・ＮＰＯ活動推進月間」「やまなしクールチョイス県民運動」などに積極的に参画し、実践活動を行っていきます。

「エコライフお絵かき・川柳コンテスト2022」について

このコンテストは、県内の保育所、幼稚園、小学校、中学校の園児や児童、生徒、県内在住又は県内勤務者から省エネ、マイバッグ・マイはし・マイボトルなどエコに関する絵及び川柳を募集することにより、その製作過程を通じてライフスタイルを見直し、環境にやさしい暮らし方をしてもらうことを目的としています。

コンテストについては環境パートナーシップやまなしホームページでもご案内しています。
https://www.pref.yamanashi.jp/shizen/partnership.html



発　表　審査結果は、環境パートナーシップやまなしのホームページに掲載します。

問い合せ先　〒400-8501　甲府市丸の内1-6-1
環境パートナーシップやまなし事務局（県自然共生推進課内）
TEL　055-223-1634

会員リレートーク Vol.45

地球温暖化の危機が悪化するのを防ぐため (一社)山梨県消費者市民社会推進協議会

(一社)山梨県消費者市民社会推進協議会は、「環境問題への取り組み」を最重要課題の一つと位置付け、地球保全のため積極的に環境負荷の低減を図り、「持続可能な社会」の実現のため最大限努力することを目的としています。

消費者自らが、現在および将来の世代にわたって社会経済情勢や地球環境に影響を及ぼし得ることを自覚して消費行動をする社会。また、その消費者の行動により公正で持続可能な社会の形成に進んで参画する社会を目指します。消費者教育推進法は、消費者教育の理念として、消費者市民社会の形成を明確に位置付けました。

県内でのSDGsや「消費者市民社会」などの認知度が全国に比べ低いことがあり、啓発や情報共有の必要性を感じ、主体的な消費者として社会に参加を促し、悪質な事業者を市場から駆逐したり、環境配慮型の商品やフェアトレード商品の選択をするなど、消費者の社会的影響力によって持続可能な社会の実現を目指そうとしています。

日本国内の危機的な環境問題

新型コロナ対策の経験に加え、自宅で過ごす時間が増えたことは、自宅で生み出されるゴミの多さや、包装紙やプラスチックの多さにも目を向けるきっかけを与えることにもつながりました。
普段はあまり意識することのない日常的な環境問題への意識の高まりは、次の行動を変えることにもつながっていくと思います。現段階では増加傾向にある家庭ゴミを今後、減らしたり、電力消費が気候変動につながらないようにするためにはどのように行動すればいいのでしょうか。



「親兄弟・祖父母への情報共有につながる小・中学校の授業にて」
「食品ロス削減教育・買い物の基本・ごみの削減と3～4R活動」
「自給率と地産地消」
「サンマが消えた異常気象と温暖化」
「野菜や生鮮食品の高騰」

基本的なことが全て環境問題・消費問題へと、またSDGｓ17の目標は、すべてがつながっています。出来ることから…

食生活を見直そう

地球温暖化を（1.5℃）に抑えるための目標（2050年温室効果ガス排出ゼロ）を実現するには、一人ひとりのライフスタイルを変えることが不可欠だとしています。ここからは、温室効果ガスを排出しない「脱炭素社会」のライフスタイルとはどんなものなのか、「食」「住まい」「行動」の3つのテーマに分けて考えていきます。「食」では、日本の食糧生産を見直すとともに、私たちが毎日食べる食料品、食事の内容など食生活について見直してみましょう。

食料不足がやってくる

気候変動によって、降水量が極端に変化したり、熱波や寒波といった極端な気象が増えたりするのは分かっています。21世紀の世界は、長雨や洪水、砂漠化や干ばつ、高温や低温の襲来によって、これまで通りの農作物の収穫が困難になりそうです。





写真:県立高校の特別授業・県立高校の親子フォーラム・市町村立小学校特別授業風景